



Vol.3 (2) 2022. 9. 6.

(発行)NPO 大学院連合

メンタルヘルスセンター

540-0012 大阪市中央区谷町1丁目6-4

天満橋八千代ビル10階 DE号

Tel.06-6755-4458 Fax. 06-6755-4459

## 巻頭言

### —幸福度と適応的選好形成—

代表理事 三戸 秀樹

#### 1. はじめに：非正規労働ほかと女性

わが国の多くの女性たちがおかれている状況は、非正規労働者の約7割が女性、そして女性は男性に比べての低賃金、さらに育児・介護などの多くを無報酬で担っている女性たちである。しかし、内閣府の「国民生活に関する世論調査」(2018年)では、現代の生活に満足していると答えた女性は、男性よりも多かった。この不一致は、一体どのように説明するのだろうか。

#### 2. 幸福度調査

近年、幸福度調査の結果報告に遭遇することが多くなった。なかでも国際連合の持続可能開発ソリューションネットワークが発行する幸福度調査レポートは、幸福度を0から10までのあいだで評価させ、その平均値を算出する主観的数値である。そしてこの報告は、GDP、社会的支援、健康寿命、人生の選択の自由度、寛容さ・気前の良さ、腐敗の認識など、6つの説明変数を介して分析している。初回報告は2012年で、以来毎年発行し、150以上の国々と地域を対象にしている。日本は、2019年は世界第58位で、2020年62位、2021年56位であった。ちなみに、2019年の世界第1位はフィンランド、第2位デンマーク、第3位ノルウェーで、わが国の世界ランキングが低いことが指摘されている。

WINギャラップ・インターナショナル調査(2016)による人生幸せ割合から不幸せ割合を引いたものでは、1位フィジー、2位コロンビア、3位中国、そして日本は第26位であった。OECD(2015年)の「生活に十分満足」は、1位ドミニカ(67.8%)、2位メキシコ(58.4%)で、日本は第43位(23.8%)であった。

日本の内閣府は、わが国評価が世界的に高くないことを気にしてか、幸福度研究そのものについて取り上げ、解説を始めている。

#### 3. 適応的選好形成

適応的選好形成(Adaptive Preference Formation)とは、人が置かれた状況に適応して、選好(二何をもって満足と感じるか)を形成する可能性があるとする概念である。ノーベル経済学賞を受賞した経済学者アマルティア・センは、不安定な雇用で働く人や、従属を強いられる主婦といった持続的差別状態にある人は、不満を言い続けられない適応的選好形成の影響を受けやすいことを指摘した。

山本咲子は非正規雇用の未婚女性に対する聞き取り調査をした。300万円以下の年収者であるが、「有給休暇があるから幸せ」と応じたり、小さな幸せや当然の権利を有り難がる傾向があった。すなわち、幸福度を論ずるにあたっては、社会的選好形成について言及しておく必要がある。人々の関心を呼ぶ幸福度ではあるが、幸福度には適応的選好形成が生じてしまうので、社会を理解する上で、幸福度という指標が本当に役立つ指標なのかどうかは果たして良く分からない面がある。

「選挙権を与え、政治的主張があれば投票で反映すればよい」は、正しそうに見える。しかし本人は、教育を受けたが、その教育内容を十分に理解しておらず、政治的主張をどのように

訴えれば良いのかも分かっていない。投票権は確かに持っているが、それを有効活用してゆく能力が身につけていない場合、一見自由があるように見えても、実際には自由とは言えない状況にあるのだ。センのケイパビリティ（潜在能力）論は、このような現実社会における問題点について答えを出そうとしたのである。わが国の若者たちの投票率の低さの陰に、このような実態がみつからないことを祈りたい。

#### 4. すでに言及されていた視点

適応的選好形成とは、人が置かれた状況に適応して、選好を形成する可能性があるとする概念で、近年議論されている概念である。しかし 1931 年のノーベル文学賞作品におけるテーマは、このことから基軸にした小説ではなかったのだろうか。

パール・バック（1892～1973）が 1931 年に書いた「大地(The Good Earth)」という大作を読まれた方はいるだろう。宣教師の彼女は、この作品によってピューリッツァー賞を得、1938 年にノーベル文学賞を受賞した。本作では、1920 年代の中国における生活が活写され、当時の中国女性たちが置かれている状況は、男性のそれよりも随分過酷であった。しかしながら、この作品にてでくる女性たちは、過酷な条件下においても、失望し尽さないで、その状況下においても最大限の利得を得るべく生き生きと前向きに生きていた。それは現況を不幸と受けとめ、鬱々と生きるのではなく、それなりの肯定感をもって生きている様として伝わった。これは、男たちの悲観した受け止め方とは随分と異なるという意味だ。この女性たちの反応の仕方は、“土着性”とでも言うことがらで説明が行われたと理解している。彼女たちは男たちとは異なり、子どもを産み育てなければならない。すなわち何としてもその子をして、食わしてゆかないといけないうのだ。現実の悪条件を嘆いている暇があれば、現実を受け止めて行動しなければならない。言い換えると、ある程度の現実肯定の上で行動しないと仕方がなかったのである。このことをパール・バックは、女性における“土着性”で説明をした。男性がとった、嘆き悲しみ、鬱々とした生き方ではないのだと指摘した。したがって男女両者間のこのような基本的差異は、生活満足度調査へも影響しているのではないだろうか。

同様な男女間の対応現象の差は、1995 年の阪神淡路大震災の際にも、被災後の夫婦の男女間で観察された。パールバックが指摘した女性の“土着性”は、阪神淡路大震災後におけるたくましい女性活動でも見ることが出来たのだ。

#### 5. おわりにー山川菊栄の指摘ー

はじめにで触れた現代生活の満足について、女性たちの多くが満足していると答え、かたや、男性がさほどでもないとなっていた。この点については、戦後間なしの 1947 年に発足した労働省において、山川菊栄(1890～1980)は初代・婦人少年局長となり、全国都道府県の婦人少年局・室長を全員女性へ任せた人でもあった。没後の 1981 年から、「山川菊栄記念婦人問題研究奨励金」が交付され、神奈川県のかながわ女性センター図書館には、現在、「山川菊栄文庫」がおかれている。その彼女の言葉が今新鮮に聞こえてくる。2011 年に制作された DVD「山川菊栄の思想と活動：姉妹よ、まずかく疑うことを習え」（監督：山上千恵子）の表題にもなっているが、山川が女性たちへ向けて発したメッセージ、「女性たちの今日置かれているところから疑ってみよう！」に集約出来るのではないだろうか。

#### 【参考資料】

山本咲子 2019 適応的選考形成を用いた女性非正規雇用者が示す生活満足度の分析：ケイパビリティ・アプローチをもとに、経済社会とジェンダー、4(3)：95 - 115、2019.

山本咲子 2020 ケイパビリティ・アプローチを用いた生活主体形成の検討：未婚の女性非正規雇用者を事例として、生活経営学研究、55：35 - 44、2020.

山本咲子 2022 女性労働者のケイパビリティに関する事例研究：雇用形態別の違いに着目して、人文科学研究、18、2020.

アマルティア・セン（訳：池本幸生、野上裕生、佐藤仁） 1999 不平等等の再検討：潜在能力と自由、東京：岩波書店.

伊藤セツ 2018 山川菊栄研究：過去を読み未来を拓く、東京：ドメス出版.

## 原子爆弾の被爆

三戸 秀樹

広島へ原爆が投下された 8 月 6 日が、今年もやってきた。77 年目だ。原爆投下の時に赤子であった人も今や 77 歳。原爆手帳を持つ被爆者たちが高齢化し、毎年約 1 万人ちかくの被爆者が鬼籍へはいり、あと少して被爆者健康手帳を持つ被爆者たちが地上から姿を消す。77 歳の被爆者として、この投下の日を迎えるにあたり、少しく伝えておきたい。

### 1. 被爆とその直後

1945 年 8 月 6 日 8 時 15 分、広島市内あった広島県立産業奨励館（原爆ドーム）の上で原子爆弾（＝広島の人々は原爆をピカとか、ピカドン称した）が炸裂した。生後 6 ヶ月あまりの私は、その時、爆心地から 5 キロメートルの市内南区の三戸医院宅で、柳こおりの中で寝かされていた。空襲警報があると、容易に家の近くの防空壕へ赤ちゃんを運ぶために…。広島市調査によれば、0～9 歳の子ども 7 万 3622 人が被爆した。そして、その年の 1945 年末までに 7907 人が亡くなった。この集計は、氏名が確認された人のみの集計で、実際の数字はさらに膨らむ。私は、この 7 万余人のひとりである。

このピカの時、従兄弟の藤野昌誠さんは市中の高校へ登校中に被爆し、亡くなった。いまだに遺体は行方不明で、彼の霊前にはアルミ製水筒キャップのみが置いてある。ピカの後、母親や身内のものたちが必死に遺体を探し求めたが見つからず、彼の水筒キャップと思われるもののみが残こされた。従兄弟の父親は、軍医として南方へ出征し、復員したときに妻（＝私の伯母、父の姉）の報告はいかばかりであったかと思うと心が痛い。

放射能影響は、広島大学原爆放射線医学研究所の吉永信治教授によれば、被爆者は、被爆後 2～3 年後から白血病が、そして乳がん・胃がん・肺がんなどが 10 年後から増加していると指摘。しかし成長途上の子どもに関する被爆は、大人の被爆者よりも、がんになるリスクが高いと指摘している。

1 週間ほどという短期間で、壊滅状態になった国鉄の線路が一部復旧し、広島市内から中国山脈方向に位置する三次という町の近くの吉舎（きさ）の松山さん宅へ疎開した（注 1）。母は 0 歳児の私を抱いて、その上の女兒 2 人を連れて、夫方の親戚へ疎開した。母自身の栄養状態は、産後状態に加えて、敗戦色濃い終戦直前のきびしい食料事情下、母乳が出る状態ではなかった。このため、おくとさんで炊く御飯、その御飯を炊くときの途中過程の乳白色の上澄みをすくい、赤子に飲ませた。もちろん当時の御飯は、米は少なく、芋や麦などを混ぜたものであった。当然、赤子はみるみるうちに栄養失調状態におちいった。過去、江戸時代などにもあった飢饉を描いた飢餓草紙にみられたように、幼子の上体は肋骨むき出し、そしてお腹だけがぶくっと出て、顔の頬はこけ、手足の四肢は細い木の棒のような状態であった。後年、幼い頃を知っている大人から「幼い頃のヒデちゃんの記憶は、いつも干し芋のヘタを口にくわえていたね…」と言われた。その当時の大人たちは十分に分かっていなかったが、発達途上の重要な時期に、甚大な放射線の影響と飢餓という二大影響をうけていた。

幼少期は身体がとても弱く、虚弱児であると指摘できる状態だった。大阪市内の小学校時代、冬場は 1 週間連続した登校が叶わず、絶えず風邪を引いて、高熱を出して寝込んでいた。小学校 1 年生の冬の学芸会で、高知の殿様にまつわる物語「てんてんてん鞠」が出し物となった。奴になって毛槍をもつての舞台登場と相成ったが、当日は高熱を押しての登壇となって、以来学芸会には出ないよう母から厳命されてしまった。自宅近くの池川医院の池川先生からは、扁桃腺が肥大している扁桃腺炎と言われた。たび重なる高熱のため、扁桃腺を切る手術が検討された。しかし、祖父の三戸玄三・医師は手術を奨めなかった。何度も高熱を出して病臥してい

る時、寝ている自身から抜け出して部屋の上の天井の片隅から自身を見るという“幽体離脱”を幾度も経験した。心配そうに看病する母に、「いま僕は、上の天井のコーナーにいて、僕が下の方で寝ていて、その横に母が居るのを遠くから見ている…」と説明すると、母はとても嫌がり、二度とそのことは言うなと言った。この幽体離脱の経験は、高熱で苦しんだ幼少期から小学生時代までで、以来経験していない。

## 2. 被爆者健康手帳

被爆者健康手帳の取得に際して、被爆をしたことを証言するための必要な証言者は、2名必要で、血の繋がりのある身内の者からの証言は採用されない。小生に関する証言を記載した書類のお二人は、広島の三戸医院の道向かいの学校教員宅の板村さんと、右隣りの漁業従事者・葭川さんであった。

1975年4月に近畿大学・医学部・公衆衛生学教室の教員となった。公衆衛生学教室だから、医学生に教える専門科目は公衆衛生学だ。この科目では、医療関係法規も教える。したがって、被爆者へ適用する「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法規」は、健康管理、医療、手当の支給、福祉事業、調査および研究ほかが定められており、これら事項についても触れることになる。ここでは、被爆者健康手帳の取得についても言及する。このため、被爆者手帳の申請をみずから行うことにした。住民票のある大阪府衛生部を介して必要書類を揃えて1985年頃に府知事へ提出した。審査の結果は、「あなたは他の家族と一緒に被爆しているはずだが、どうしてあなただけ申請するのか？」が返答であった。申請動機は、「自身が公衆衛生学の専門家で、折しもコメディカルの臨床検査技師養成課程の夜学講師をしており、公衆衛生学関係法規を教える関係上、体験的に被爆者手帳の申請をしてみることにした」がおもな理由であった。同時に、被爆時の家族のことについても付記返答した。同時被爆した両親や二人の姉たち3人は、手帳交付の意思がないことと…。加えて、3人の住所と電話を記載し、直接問い合わせたいと記した。その時の父は、大学教授を辞めてシャープ株式会社の中央研究所を創設するために専務取締役をしており、長姉は東京の三鷹在で、その夫は東大・理学部教授、次姉は米国シアトル在で、夫は米国人で高等学校のスペイン語教師であることも書いた。弟が一人いるが、彼は被爆をしていないことも…。そして三者の住所や電話番号などもレターに書き込んだ。結果、申請が認められ1986年1月13日に被爆者健康手帳が交付された。

この手帳が交付されると、春秋年2回の被爆者健康診断を受けることになる。従前は地区の保健所へ出向いて健診を受けた。現在は和泉市立総合医療センター（旧・和泉市立病院）で受診している。

理学部・物理学科を卒業し、続いて文学部・心理学科を卒業して、さらに大学院5年間を終え、トータル11年間の大学・学生・院生時代を終えて医学部教員になった頃、幼少期に比べてみて格段に体力がついていると自身は考えていた。しかし、当時の公衆衛生学教室の助教授から、「身体が弱いので勤務継続ができるの？」と問われたことを憶えている。加えて、就職して2年目に結婚したが、その妻からも「こんなに身体の弱い人は初めて…」みたいな指摘を受けた。自身の健康認識と周囲の認識の違いを強く感じた時であった。たしかに働きはじめて、たび重なる学会出張の折、いつも自分なりの薬一式の小袋用意をして出かけていた。この出張時の小袋携帯は、50歳を越す頃から携行を忘れるようになった。

厚生労働省によると、被爆者健康手帳を有する人は、11万8935人で、前年度同時期から8820人減少した。そして死没者総数は、33万3920人を数えた。生存者の平均年齢は84.53歳となり、今年初めて84歳を越え、ほどなく直接の被爆者がいなくなるのだろう。

（注1）松山さん宅は、祖父・三戸玄三の妻・栄（エイ）の実家で、当時の当主は松山戒三、妻は里恵さんであった。松山家は、代々の医家で、息子の松山栄吉さんは、東京の愛育病院・病院長をのちにしておられた。ちなみに愛育病院は、昭和天皇誕生の際に恩賜財団愛育会が設立され、1934年に創設された病院である。

1. 就労前の安全教育

健康や安全について教える教科は、英語？国語？数学？生物学？物理学？・・・、いやそのような教科ではない。それは「保健」という教科である。現在の保健科のほとんどは、体育教員によって行われている。大阪市の中学校における保健科教育では、2018年12月23日の朝日新聞新聞報道では、「保健を教えず球技をやらせる」記事が載った。学習指導要領では、中学校の保健授業は3年間で48時間が必要である。しかしそのうちの約30時間が実施されておらず、半分の時間数も満たしていない実態が明らかになった。担当教員からの言い訳は、「生徒が球技を好んでいると思った」だった。一部の教育現場では、雨が降ったから教室に移動して保健を教える、いわゆる「雨降り保健」が含まれているかも知れない。雨が降ったから、教室に入って行った保健では、働き始めて必要な労働安全衛生に関する教育が十分に教えられていない可能性がある。

交通安全教育においても、保育園や幼稚園で実施されてきた交通弱者向けの教育体験記憶はある。しかし、いよいよ単車や車を運転して加害者になる可能性をもちはじめの最初の時期、それは高校時代である。しかし高等学校時代に、交通強者としての教育を受けた記憶はほとんどない。

コンピューターの恩恵に浴する日々の生活・労働時代となり、多くの人たちがコンピューター端末を使いながらの毎日になって来ている。スマホは、今やコンピューター端末でもあるのだ。かつてののオフィス労働は、紙、ボールペン、ソロバン（注：一時は電卓）、カーボン紙、電話などのツールであった。それが短期日のうちに、VDT（Visual Display Terminal）作業に変容してしまった。この変容過程において、視覚系負担、頸肩腕系への負担、椅座業負担、妊婦への影響ほかへの研究が実施された。この結果、今日の「VDT作業に関する作業管理基準」が作られた。コンピューター教育がすでに学校で実施されており、社会に出てもコンピューターと無関係な仕事はほとんど存在しない。

その割には、学校教育の保健科教育において、労働三管理の①作業環境管理、②作業管理、③健康管理が語られ、そのうちのコンピューター作業における①作業環境のあり方、②作業管理のあり方についての実際の教育が行われているとは思えない。具体的には、中央労働災害防止協会が発行する「労働衛生のしおり」（注：現在は記載が無い）に書き続けられたVDT作業に関する記載くらいは教えておいて欲しい。そうすれば、この種の労働時の作業環境への配慮として、事務椅子の5本脚や椅子背もたれのあり方、さらには椅子肘掛けのあり方、そしてディスプレイへの映り込み影響に関する照明灯ルーバーの有無などに関する知識も身につく。コロナ禍影響によるリモート勤務における、VDT作業のあるべき作業環境の知識を自宅でも活用できることになる。しかし学校で教えていないのであれば、活用されることはない。

近年の文科省は、保健科教育をして、3年以上保健室勤務経験を有する養護教諭による保健科授業を許可した。保健科の教員免許は一般教職免許である。養護教諭の教員免許は、特殊免許といわれる教員免許である。分かりやすく言えば、養護教諭はスクールナースであり、労働上の配慮に関する保健科については教員免許取得時に習得していない。はっきり言って無資格



図. 朝日新聞 2018.12.23.

教員に教えさせているのだ。

同じような質が担保出来ていない実態は、近年の「情報」科担当教員においても同様なことが言える。朝日新聞の 2022 年 6～7 月の調査によれば、公立高校で今春から「情報Ⅰ」が必須科目となっているが、この「情報」科目を教えている教員の約 15 %は情報科教員免許をもっていない。加えて、2025 年以降の大学入試共通テストには、教科「情報」は出題されるのだ。

社会に出て働いて、労働者の多くが多種類の労働災害を被っている現状だ。さらに加えて、過労死の言葉が出来て 40 年経ってもまだ解決が出来ていない現状は、労働災害にならない教育が不十分であることが、大きな一因のひとつだと考えられる。大学入試共通テストの出題科目に、是非とも「保健」を入れて欲しい。そうすれば、文科省も無資格教員ではなくて、真の「保健」科担当教員について真剣に考え、その教育内容の充実についても考えざるを得ないだろう。

## 2. 中・高等学校における保健科教育

中学校や高等学校における保健科教育を、文部科学省は一体どのように規定しているのだろうか。中学校を出て働く人もいる。であれば、中学校の「保健」学習指導要領には、労働絡み規定があるのだろうか。高等学校の「保健」学習指導要領には、社会生活と健康のなかに①環境と健康、②環境と食品の保健、③労働と健康とあって、ここの③に労働絡みが書かれている。しかし中学校のそれにおいては、労働というキーワードは存在しない。

さらに、高等学校における学習指導要領の③労働と健康に書いている記述は、「職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であること」となっているが、果たしてどれほどの具体的内容が教えられているの？ いたのだろうか？ 近年のクボタショックで示された石綿問題は、その地域の高等学校だけでも教えていなかったのだろうか？ 石綿取り扱い工場近辺の尼崎で、泉南地区で…。残念なことに、石綿被災者の人々から、高等学校の保健科教育のあり方についての批判を聞いたことがない。

恩師・細川汀先生たちによる「過労死：脳と心臓系疾患の業務上認定と予防」（労働と経済社、1982）が公刊され、過労死という言葉が一般化をし、労働現場では過労死・過労自殺そしてメンタルヘルス問題が一層大きくなっていった。戦後 1982 年までは 37 年、さらに 1982 年から今年で 40 年。従前の労働上の健康と安全問題は、大きく様変わりをしている。テーマは首から下の問題から、首から上の問題（ストレス、メンタルヘルス）へ移行してきたのだ。そして 40 年ほど前に過労死の言葉が出来たが、いまだに解決が出来ていない。このような新しい労働に関する健康・安全問題が起きている昨今、養護教諭による保健科教育で果たしてうまくゆくのだろうか。どのような文科省感覚なのかと大きな疑問を感じるのは私一人だけなのだろうか。

### 産業安全のこぼなし（4）

#### ーカネミ油症についてー

わが国の食品の安全性問題の第 1 号としては、森永ヒ素ミルク事件が 1955 年に起きた。森永乳業は粉ミルク製造過程において、安定剤としての第二燐酸ソーダを粉ミルクに添加していた。試験段階では、試薬 1 級のものを使っていたのだが、本格導入時に安価な純度の低い工業用のものに変更し、それは多量のヒ素を含んでいた。このため、粉ミルクを飲んだ乳児が、130 名をこえて死亡し、多数のヒ素中毒患者を出した。当時の高度成長時代背景もあって、政府は森永乳業側に立った収束位置で、被害者の運動は抑え込まれた。その後 1960 年代には森永製品に関する不買運動が起きた。14 年後、大阪大学・医学部・公衆衛生学教室の丸山博教授たちによって、被害者に後遺症が残っている可能性があぶりだされ、その報告が日本公衆衛生学

会で発表され、事件は再燃し、不買運動がさらに大きくなり、わが国における不売買運動の史上最大のものとなった。被害者のなかには、脳性麻痺・知的障害・てんかん・脳波異常・精神疾患等の重複障害に苦しむ者が含まれた。加えて、ミルクを飲ませた自責の念に悩み苦しむ被害者の親も多かった。1973年12月、被害者・厚生省・森永乳業の話し合いによって確認書が結ばれ、1974年4月に被害者の恒久的な救済を図るための財団法人「森永ミルク中毒の子どもを守る会（現「森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会）」が発足をし、森永乳業は救済資金を拠出することを約束した。

森永ヒ素ミルク事件に次ぐ食品安全性問題は、カネミ油症であった。カネミ油症は患者の発生は1963年頃から出始めていたが、1968年に確認された国内最大規模の食品公害である。ポリ塩化ビフェニール（PCB）やダイオキシン類が混ざったカネミ倉庫株式会社（北九州市）製の食用油を食べた人に対して、皮膚の色素沈着、黒い吹き出物、爪の変色、手足のしびれなど、頭痛、全身の倦怠感、肝機能障害などの内臓疾患、様々な健康被害をもたらした。加えて、国は1972年にPCB製造を禁止した。とくに、西日本一帯において1万4千人の被害届が出たが、2,353人が患者として認定された。認定患者数が少ない理由は、すでに相当数がすでに死亡しており、認定時期の遅れが理由だと考えられた。

1970年、被害者たちは食用油を製造したカネミ倉庫とPCBを製造した鐘淵化学工業（鐘化、現・カネカ）と国を相手に損害賠償請求訴訟の民事裁判をおこした。1977年の一審でカネミ倉庫と鐘化にほぼ全面勝訴し、二審で国に勝訴して、約850人に対して賠償金約27億円が仮払いされた。ところが最高裁で逆転敗訴の可能性が強まり、被害者側が訴えを取り下げることになった。このため返還義務が生じて、自殺者が出る事態となって、鐘化に責任がないと認めることによって、仮払い金の返還請求をしないとする和解が行われた。

この被害は、影響を直接的受けた人に留まらないで、さらに、その被害者の子や孫に及んでいる可能性がある。現在起きている問題は、油を食べていない人に特有の症状を訴える人がいることで、国が初めて、患者の子どもと孫に対して2022年8月から「カネミ油症次世代調査」をすることにした。なかには、母乳によってダイオキシン類が子どもへ移行したという指摘もある。九州大学が実務を担当するが、全国油症治療研究班が調査票を配布して調べる作業が始まって、調査票を10月に回収して、油症検診の血液などの身体の検査結果とあわせて分析が行われる。

以上のように産業活動の結果から、大きな健康問題がおきることがある。加えて、多くの被害を受けた人々や関係者たちがメンタル被害をこうむることもある。この事態を単に、“こころ”の問題にのみ特化して対応関係をとるのではなく、その問題の根幹から理解をして、安全へ向けた予防的な考えや、予防的措置へつながら心理的指導が出来る心理屋さんが待たれる。現在のMHCにおける産業における安全関係の講座は、2021年度から「産業安全シリーズ講座」が開講されている。相談員の多くが受講されると期待していたが、相談員の受講は少なかった。（文責：三戸秀樹）

## ウクライナ戦争で思い出した関学グリークラブの歌 ウ・ボイ（U B o j !）

三戸 秀樹

### 1. 映画「戦艦ポチョムキン」

理学部物理学科に入学して、大学2年生までに選択受講する一般教養課目として、芸術の講義を選択した。その講義内容は映画論であった。その折に知った映画に、ロシアのセルゲイ・エイゼンシュテイン(1898~1948)監督による「戦艦ポチョムキン」という有名な映画を知った。映画は、1925年に公開されたサイレント映画で、第1次ロシア革命20周年記念のために、共

産主義的プロパガンダ映画として制作された。わが国では共産主義の宣伝用としてとらえ、長らく上映されることがなかったが、1967年に初めて公開された。

本作では、エイゼンシュテインが初めて使ったモンタージュ理論というものが使われている。この映画鑑賞をした記憶がなかったので、最近DVDを購入して観たが、サイレントの映画である。映画の終わりのシーンに、「オデッサの階段の虐殺」という有名なシーンがある。ここでは、兵隊たちがオデッサ市民へ向けて発砲をし、殺してゆくシーンである。しかし、史実としての「オデッサ階段の虐殺」は存在しないという。

オデッサの階段は、高台から港へ通じる一直線の大きな階段である。当初は 200 段の階段で、現在は 192 段で、踊り場が 10 存在し、1837 年から 1841 年の 4 年間をかけて建設された。世界でも有数の大きな階段である。

なお、1991 年のウクライナ独立後は、オデッサの階段は、本来のプリモルスキーの階段の名に戻った。なお現在のウクライナにおいて、ソビエト時代に言及する際は、ポチョムキンの階段と呼んでいるようだ。

## 2. グリークラブの持ち歌になるまで

第 1 次世界大戦の終戦の翌年 1919 年、日米連合軍の助けでチェコスロバキア軍をウラジオストックから船で帰路につかせるなか、台風のために下関沖で船が座礁した。その船は修理のために神戸三菱造船所へ曳航されて修理。乗員の兵士は鉄路で神戸へ移動し滞在した。

当時の関西学院大学の前身は、神戸市の現在の王子公園（原田の森）にあった。チェコスロバキア軍のなかに英語を話す人いることが分かり、兵庫県外事課長が英語の堪能な関学学生である塩路義孝君をして兵士の滞在先を訪ねて通訳をすることにした。訪問を繰り返すうちにオーケストラや合唱の練習をしているところに遭遇した。加えて、自身の所属する関学グリークラブ（1899 年発足）との交流が始まった。そして、1919 年 9 月 15 日に原田の森における合唱会が実現した。チェコ軍が歌った歌のなかに「ウ・ボーイ」という歌があった。その歌をグリークラブでも歌ってみたいと考えて、楽譜を譲ってもらって書き写した。チェコ軍とは 2 ヶ月ほどの短い交流だったが、別れの時に彼らの宿舎で送別会が開かれ、グリー部員たちは憶えたばかりのウ・ボーイを歌った。チェコ軍は、母国からはるかに遠い極東の地で、原語を知らない日本人学生たちのウ・ボーイを聞いて涙したと言う。以来、関学グリークラブでは、ウ・ボーイはチェコスロバキア民謡と長らく理解してきた歌で、現在も歌い継がれているクラブの歌であり、宝物のような存在になっている。小生もグリークラブの演奏会において幾度となく聞いた歌で、演目になくても、時にはアンコールで聞いたこともあった。太平洋戦争が勃発して、出征する生徒を送る時にも歌われた歌となった。西宮市上ヶ原キャンパスの中央芝生の大講堂の横に、戦死した生徒の慰霊碑が建てられている。学生時代、8 月 15 日の終戦記念日に学院関係者が碑の前でお祈りをされている場面に遭遇したことがあった。今でもされているのだろうか…。

第 1 回世界大学合唱祭が 1965 年 9 月にニューヨークのリンカーンセンターで行なわれた。この時に関学グリークラブは、アジア代表として招待された。昼食会で、関学グリーがウ・ボーイを歌い始めると、会場のユーゴスラビアのスコピエ大学の学生たちが立ち上がり、一緒に歌いはじめた。それは、ユーゴスラビアにおける有名なオペラの行進曲であったのだ。その後、関学グリークラブは、1989 年ヨーロッパ演奏旅行でザグレブを訪問している。この訪問に合わせ、現地では特別にオペラが上演された。伝わってから丁度 70 年目の里帰り演奏が実現したことになった。現在、わが国では全国の男性合唱団でもよく歌われている曲だ。

## 3. 歌い継がれている歌

チェコスロバキア軍から知ったウ・ボーイであった。このチェコスロバキアという国は、チェコ人とスロバキア人から構成され、チェコ人もスロバキア人もスラブ系民族である。現在は、1992 年からチェコ共和国とスロバキア共和国に分かれた。

ウ・ボーイという歌は、戦いの歌で、ユーゴスラビアにおける有名なオペラの行進曲でもある



(作曲イウ” アン・ザイツ、作詞フラーニョ・マルコビッチ)。16 世紀にオスマントルコ軍とシゲット城で戦って亡くなるが、クロアチアを救ったニコラ・シュービッチ・ズリンスキー総督のことを物語る、国民的な英雄物語の曲である。ユーゴスラビアの原義は、ユーゴ＝南、スラビア＝スラブ人で、「南の方のスラブ人の国」とでも言う意味だ。しかし多民族国家で、かつてのユーゴスラビアは、7つの国境、6つの共和国、5つの民族、4つの言語、3つの宗教、2つの文字、1つの国家と形容されていた。1918年にセルビア王国を主体とした、セルビア人・クロアチア人・スロベニア人王国が成立するが、1929年にユーゴスラビア王国と改めた。1941年にナチス・ドイツを中心とする枢軸国の侵攻によって1941年制圧された。しかし、ヨシップ・ブロズ・チトーの率いるパルチザン抵抗運動によって勝利する。1945年からパルチザンが設置したユーゴスラビア民主連邦が正式なユーゴスラビア政府となって、社会主義体制が成立。ちなみに、社会主義体制へ移行する際、ソ連の助けを求めなかった唯一の国でもある。その後、ユーゴスラビア民主連邦がユーゴスラビア連邦人民共和国となり、1963年にユーゴスラビア社会主義連邦共和国と改称。チトーの1980年の死後、各構成国からの自治・独立要求が高まり、1991年から2001年までの紛争によって解体した。ユーゴスラビア社会主義連邦共和国における6つの構成共和国はそれぞれ独立し、スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、北マケドニアとなった。また、セルビア国内の自治州のコソボは2008年にセルビアからの独立宣言をした。しかしコソボを承認している国は2015年8月で国連加盟193か国のうちの110か国で、コソボ独立を承認していない国々からは依然コソボはセルビアの自治州と見なされている。現在、ユーゴスラビアという国は存在しない。したがって、ウ・ボイはクロアチアの愛国歌に相当する。

17世紀の軍政国境地帯の内、クロアチア人、セルビア人らの地域は「ウクライナ」と呼ばれていた。なお、このウクライナとは、「辺境」を意味するスラヴ語である。したがってスラヴ語圏の各地に、「ウクライナ」と呼ばれる地域が存在する。

さて現在、ロシアと戦っているウクライナにおけるウクライナ語は、インド・ヨーロッパ語族のスラヴ語派の東スラヴ語群に属している。1979年に旧・ユーゴスラビアへ行った時、彼の地での「こんにちわ」は「ドーブリエン」だった。ウクライナ語における「こんにちわ」は、「ドーブリー・デーニ」と言う。言語的にもかなり近い関係であることが分かる。東欧地域の歴史は実に複雑である。ウ・ボイの歌が、はたして現在のウクライナにおいてどれほど知られているのかはまだ確かめていない。

#### 4. ユーゴスラビアでの学会発表

ユーゴスラビアのドゥブロブニクにおいて、1978年に国際学会が開催され、口頭発表したのもので、その際のユーゴについて少し記しておこう。第XIX回の国際労働衛生会議という国際学会が開催された。Problems that cause health hazards to supermarket cash register operators と題して、当時、わが国において急激に拡大していったスーパーマーケットにおけるレジ係の労働負担とその改善対策についての口頭発表をした。発表した際に使ったアブストラクトの写真は、後日、ドイツから発刊された金銭登録作業に関する成書のなかへ掲載されていることを知った。

当時は東西間の鉄のカーテン時代で、日本からユーゴスラビアに行くには、一気に飛ぶことが出来なかった。ちなみに、ニューヨーク発→韓国・金浦空港へ向かう大韓航空機を、ソ連の戦闘機が領空侵犯で撃墜した。この事件は1978年4月20日におきたが、ユーゴスラビア出張の数ヶ月前の出来事だった。旅客と乗員269人が死亡した。乗客には、日本人28人が含まれていた。数年前、稚内の樺太がみえる宗谷岬に建てられた慰霊碑を詣でたことを思い出す。

ソ連領のシベリア上空を飛ぶと、その航空機は打ち落とされた時代である。このため羽田からアラスカのアンカレッジへ飛び、白銀の世界から北極圏を飛んでモスクワへ入った。そしてモスクワから共産系衛星国であるユーゴスラビアへと飛んだ。当時のソ連における旅行社はイ

インツェリストという国営旅行社であった。当時、ドルからルーブルに交換しても、残ったルーブルをドルに戻すことは出来なかった。結局残ったルーブルで切手を買ってお土産にするしかなかった。とにかく当時のソ連はドルが欲しかったのである。インツェリストの人は女性だった。えらく威張ったお役人という感じがしたことを覚えている。ソ連訪問前に読んだ本に、ロシア革命成立の祝電を日本から打電した幸徳秋水を含む3人の коммуニストの名前が、赤の広場の銘板に刻まれていると書いてあった。その1人は、小生の曾祖父・林源十郎の義弟・山川均（妻・浦の弟）である。しかし、そのようなことを告げる雰囲気はまったく無かった。自身も коммуニストと間違われると、何かしらやっかいなことに巻き込まれるような気がした。山川については、勁草書房から1966年から2003年にかけて出版された全20巻からなる山川均全集がある。日本社会党の理論的背景となる山川イズムを構築した人である。

ユーゴスラビアへの飛行機は、現在のように操縦席と客席がドアで隔離されているものではなく、客席から操縦席を見通すことが出来た。しかし左右の客席の先頭には、目つきの悪い男が左右一人ずつ計二人座っていた。すなわち警察官かあるいは警備員と思われる人物であった。着陸は、これまでの旅客機で経験したことがない急旋回で、機体は45度から90度近い傾斜状態でカーブを描いて滑走路へ一気に着陸した。「何だ、こりゃ戦闘機だワ」と思った瞬間で、44年たった今でも思い出す。

道路標識の地名表記がセルビア語なのかクロアチア語なのかは分からなかったが、アルファベット表記でなかった。したがってローマ字読みも出来なかった。現地説明では、表記はほとんどなくアルファベット表記に変わると告げられた。当時のユーゴで通じる言語は、セルビア語やクロアチア語は言うまでもないが、これらの言語は、自身には喋ることができない。その代わりに通用出来る言語は、ドイツ語かロシア語であると教えられていた。しかし歴史的経緯から、ドイツ語は出来るだけ使わないようにと教えられていた。ロシア語は、心理学における条件反応研究を学ぶ際に、ロシア語の先生を招いて大学で勉強会を開いていた。このわずかな経験のみだが、カタコトでロシア語をしゃべり、道を警察官に聞いた。警察官は笑いながら、教えてくれ、褒めてくれたことがあった。現在のドゥブロブニク旧市街は、世界遺産に制定されているが、少し前のユーゴスラビアの内戦状態は、旧市街も壊滅状態になったのかと随分心配をした。ユーゴでの買い物は、国家公務員が販売をするので、公定価格で値切り不可能だと思った。しかしそこは大阪人、ダメ元で値切ってみた。すると、あっさりと値切り交渉 OK だったのだ。モスクワのそれとは随分違うなと感じた。さらにドゥブロブニク前のアドリア海遊覧船に乗ってみると、つれていかれた所のひとつはヌーディスト島であった。共産国家に存在するとは思ってもいなかった…。これまた、ソ連印象の堅さとは異なる感じが強くなった。ユーゴは王政からパルチザンの戦いを経て共産系共和国へ移行するが、他の共産系共和国となった国々と異なるのは、その折りにソ連の助けを求めなかった唯一の国である点だ。このあたりが、どうも緩やかさや柔軟性のあり方と無関係でないように感じとれた。

#### 【参 考 資 料】

エイゼンシュテイン,S.E. 1925 戦艦ボチョムキン（無声映画）。

山川菊栄、向坂逸郎（編）1961 山川均自伝：ある凡人の記録・その他。東京：岩波書店。

山川均 1966年-2003年 山川均全集（全20巻）。東京：勁草書房。

### 相談員だより（3）

一産業系領域の相談活動に必要なこと一

相談員 福田 茂子

相談員だより(1)(2)の内容に大いに共感しながら読ませていただきました。今年5月から公務職場の相談員となりました。市町村職員共済組合が開いている相談窓口ですので、相談に来

る方はみな違う職場の方です。その方からお聴きする職場の状況しかわかりませんので、門此相談員のおっしゃっていた、「組織的な問題を解決できるしかるべき上層部にも報告」することができない状況です。

大学院連合からの事業所紹介以外に、自営でいくつかの法人と契約してメンタルケアをさせていただいていますが、衛生委員会を開催している法人であれば、そこに毎月参加させていただいています。相談の内容によっては、人事異動や個別の配慮をしてもらうこともありますし、システムの問題について意見を述べることもあります。衛生委員会を開催していない法人には、担当の管理者の方にその都度、または 1~2 ヶ月ごとくらいに、相談をしていて気づいたことなどをまとめてフィードバックしています。

しかし、共済組合の窓口だとそれは望めません。この間、お聴きしたご相談のほとんどが人事に関わる問題でしたが、直接に何かできるわけではありません。八柳相談員が書かれていた「心理師は希望を処方する」が本当にそうだと思います。例えば、異動することで、その方の健康を損ねることが明らかな場合であったり、逆に異動することで健康的に働くことができたりするのであれば、ご本人から人事や上司に働きかけていただくための勇気と希望を持っていただくことが相談員の役割なのかなと思っています。ただ、相談者の視点でしか職場を見られていないので、かえって、相談者の負担になるようなアドバイスになっていないか、かなわなかった時のフォローをどうするのかもあらかじめ相談しておく必要があります。

ちなみに、メンタル休職後の復帰職場は原則元職場となっていますが、「適応障害」の場合、元職場復帰で返って増悪することがあり、総務省が出した地方公務員のメンタルヘルス対策についての研究報告でも、「復帰については休務者の意向も踏まえ、復帰の部署や勤務形態に配慮することが重要」としています。職場や人間関係でトラウマティックな体験がある場合は、その職場に長期間いることで PTSD と同じような症状がでてくるという事を知り、その辺りに気をつけようと思っています。みなさんはどうされていますか？

## ニュース

● 2022 年 1 月の公開講座において、現代人の孤独に関する 2 回にわたる講義が実施されました。この受講者のなかに、神戸新聞の記者さんがおられました。これを御縁に、代表理事が神戸新聞「随想」へ書くことになりました。5 月から 8 月末までのあいだ、8 回分の記事が載りました。

## 事務局だより

- 佃奈穂子さんに、4 月から事務職として勤務を開始していただきました。これまでの事務作業者が辞められたことに伴った交代人事です。
- 奈良県市町村共済組合からのストレスチェック契約方法が、組合からの一括契約でなくて、次年度から個別契約へ変わります。このために、7 月 27 日に代表理事と事務局長 2 人で橿原市までおもむき、各市町村の担当者へ向けて MHC の事業説明他と御挨拶を致しました。
- MHC のお盆休みは、昨年と同様で 8 月 12 日(金)~ 16 日(火)になりました。
- MHC のホームページ ([www.mental-health-center.jp](http://www.mental-health-center.jp)) を開く際に、右の QR コードを活用下さい。



## 編集後記

●各大学からの春の学部実習が本格化しました。さらに、年間のシリーズ講座（①産業安全シリーズ講座 2022、②産業保健シリーズ講座 2022）に加えて、新講座の③産業福祉シリーズ講座 2022 を加えた日程・講義内容・担当者決定のために手間取りました。

3 ヶ月ごとに発行する既刊誌第 2 号です。4 ~ 6 月に第 1 号を発刊、そして第 2 号は 7 ~ 9

月の発刊になります。しかし上記のほかの、多くの作業で混んでしまいました。このため執筆作業が進めなくて、ついに9月の第2号発刊となってしまいました。まことに申し訳ありません。

●MHC会報 Vol.1(3)2021年3月22日発行の事務局だよりにおいて、ウクライナからの留学生クレシェンコ・アンナさんからの相談依頼内容ことについて書きました。最近、彼女の名前が新聞他に現れます。実は、彼女はウクライナのオデッサ出身の方であることを知りました。ウクライナとロシアの戦争が2月24日に始まりました。時宜にあわせて、本号では「ウクライナ戦争で思い出した関学グリークラブの歌：ウ・ボイ（U B o j）」を加えました。

（編集子）